

短報

人間環境大学松山看護学部における 学生に対する新型コロナワクチン接種の実態 および副反応等への対応 － 2回の集団接種を通して －

村上 早苗¹⁾ 河野 保子¹⁾ 谷本 恵子²⁾

¹⁾ 人間環境大学松山看護学部

²⁾ 社会医療法人仁友会 南松山病院

I. はじめに

2020年1月16日に新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の国内初感染者が確認されて以来、感染拡大は全国に及んだ。そして日本では、2021年7月初旬から同年9月中旬までの第5波を経て現在に至っている。その間、様々な変異株も検出され、2021年4月には緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発出されたが、感染者の減少等により同年9月30日をもって全都道府県で解除されている。しかし今後、低温・乾燥で感染力が増す冬季になるため、第6波に備えた感染症対策は継続して取り組む必要がある。その中で、感染収束の決め手といわれるワクチン接種は、2021年2月14日に国内で初めてファイザー社とビオンテック社が共同開発したmRNAワクチンが承認され、同年2月17日に医療従事者約4万人を対象にワクチン先行接種が開始された。これを契機に、ワクチンの優先接種が医療従事者から65歳以上の高齢者、基礎疾患のある方等へと順次開始され、同年10月からは高校生への接種が始まっている。現在の日本国内の接種状況は、1回目接種者の全人口に占める割合が75.5%、2回目接種者の全人口に占める割合が67.4%まで進んでいる（首相官邸の情報、2021.10.18）。

本学部は新型コロナウイルス感染拡大のなかで、教学委員会・学生委員会・衛生委員会が連携を取りながら、オンライン授業と対面授業およびハイブリッド授業を感染状況に応じて採用し、教育の質の維持を図ってきた。また、学生には毎日の検温や体調観察、手指衛生の徹底、不織布マスク着用の遵守を指導し、校内では密集・密閉・密接の回避を推進するため、教員が昼休憩中にラウンドを行い、学生へ注意喚起をして感染予防対策を継続している。

本学部の学生・教職員に対するワクチン接種は、学生の臨地実習の連携病院である南松山病院のご協力を得て、医療従事者に準じる取り扱いのもと、2021年6月16日に学生と教職員併せて116名（学生90名、教職員26名）が、第1

回目の集団接種を実施した。優先接種に関しては、臨床現場でケアを行う学生であり、約3割を占める県外学生の夏季休暇中の県移動による感染拡大を危惧したこと等を踏まえ接種計画を遂行した。

本報告の目的は、本学部学生の新型コロナワクチン接種に関する実態がどのような状況であったのかを検討し、学生の安全性確保や副反応等について分析するものである。

II. 新型コロナワクチン接種に対する大学側の対応

1. ワクチン接種前の対応

2021年2月から医療従事者への先行接種が始まり、ワクチン接種が順次進められている中で、本学部は文部科学省・厚生労働省通知（文部科学省 2021.5.14）「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設の対応について」を踏まえたうえで、実習での連携病院に学生と教職員を対象としたワクチン接種協力の依頼を行った。そして、同年6月4日に学部長・学科長の連名で「新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種について」のメールを学生および教職員に配信後、ワクチン接種に向けて希望調査を実施した。希望調査をする際は、ワクチンの正しい知識をもったうえで本人の意思に基づいて接種を判断できるように、ワクチンの感染予防効果と接種後の副反応のリスクを説明した。さらに、未成年の学生には保護者と十分に話し合いをもち実施の有無を判断すること、接種は強制でないことなども詳述した。希望調査の結果は、1年生は89名中76名（85.4%）、2年生は79名中68名（86.1%）、3年生は64名中55名（85.9%）、4年生は60名中53名（88.3%）、休学中の学生は、5名中4名であった。学生の希望者は297名中の256名（86.2%）であった。希望しない学生は41名（13.8%）おり、その理由はワクチンの副反応に関する内容、持病により接種を希望しない等であった。この事から、学生へはワクチン接種後に症状が

発現した場合は無理をしないで休むこと、薬剤を準備して対応すること、1回目より2回目の方が副反応のため生活に支障が出ることも等も補足説明した。

2. ワクチン接種中の対応

1回目のワクチン接種は、南松山病院が休診日の6月16日の午前中、教員6名がワクチン接種前の受付の整理・予診票の確認、接種後の誘導、接種後20分間の副反応の観察等について病院のスタッフと連携して実施し、集団接種を終えた。学生の集団接種は、統合実習が間近い4年生から開始し、1年生、3年生、2年生へと接種計画を立てた。

1年生の接種については実習前の小児感染症ワクチン接種が優先となるため、小児感染症ワクチン接種を終えている学生から、随時新型コロナワクチンが接種できるように計画の修正を行った。同年7月11日には、学生の希望者全員が1回目のワクチン接種を終了した。

2回目の接種は、1回目の接種後3週間の間隔をあけて7月7日から集団接種を開始し、8月1日には2年生の希望者全員と休学者全員が接種を終了した。そして3年生は8月17日、4年生は8月21日、1年生は10月16日に2回目の接種を終了した。

南松山病院における学生の優先的接種を終えるまでに4か月を要したが、本学部学生のワクチン接種希望者に対しては無事にワクチン接種が終了した。南松山病院でのワクチン接種は、副反応の出現等を予測して臨地実習や定期試験前を外して計画し実施した。そして1回目と2回目の集団接種として累計25回の実施日を取り、実施日は接種人数や学年に応じて教員1名から4名が引率をし、学生等の誘導や接種後の経過観察を行い、副反応が出現した際の早急な対応にも備えた。

3. ワクチン接種後の対応

ワクチン接種後の重要な対応は、接種後の体調不良と体調不良に伴う欠席であった。特に、県外から来て一人暮らしをしている学生が欠席した場合は、メンター教員から連絡をして症状を確認し、状況によっては自宅へ解熱薬や食料品を届け、安心して療養ができるよう環境調整を行った。

1回目の接種後の体調不良の連絡は約1割程度で、症状は発熱が約80%を占め、その他の症状は倦怠感、接種部位の痛み、頭痛、吐き気、めまい等であった。体調不良で欠席した期間は1日から2日間程度であり、ワクチン接種後の副反応による欠席の扱いは公欠とした。

2回目の接種者への対応は、国立国際医療研究センターの報告（国立国際医療研究センター、2021.5.12）「1回目接種に比べて2回目接種に日常生活に支障のある症状の報告が多い」を参考にして、体調不良者が多く出ることを予測していた。予測した通り接種当日から倦怠感、頭痛、吐き気症状の体調不良の訴えがあったが、接種当日の発熱者はいなかった。接種後1日目の体調不良の連絡は接種者の

5割を超え（51.2%）、連絡があった学生全員が発熱と発熱に伴う全身倦怠感があり、その他の症状は頭痛、接種部位の痛み、吐き気症状であった。学生に対しては、事前に2回目接種後の方が副反応は強いことを説明していたため、内服薬を使用して経過を観察している学生が多数いた。体調不良で欠席した期間は、接種当日から4日間程で、1回目接種より体調回復に時間を要していた。ワクチン接種後の副作用による欠席は1回目と同様に公欠とした。

Ⅲ. まとめ

ワクチンは新型コロナウイルスの感染症を予防し、ワクチンを接種した者が接種していない者よりもCOVID-19を発症した人が少なかったということが明らかになっている（厚生労働省、2021.7.13）。このような情報を得て、日本国内ではワクチン接種が進むなかで、本学部は接種順位の上位となる医療従事者等のグループとして、優先的にワクチン接種を開始した。本学部の学生におけるワクチン接種希望者は246名（82.8%）であったが、実際には2回目までのワクチン接種終了者は265名（89.2%）まで増加していた。当初、希望していなかった学生も、南松山病院以外の他施設や職域ワクチンを利用して接種を終えていた。本学部学生のワクチン接種数（率）等に関する結果を表1に示す。

現在、愛媛県のワクチン2回目接種率は71.1%（愛媛県、2021.10.11）であり、本学部学生の接種率が約9割となっていることは、学生はワクチン接種の重要性を認識するとともに、接種場所が病院であったこと等、安心・安全に接種できると考えたのではないかと推測できる。医療専門職となる学生として自身を感染症から守るだけでなく、周囲の人に対して安全を提供するという姿勢が培ってきているのではないかと考える。しかしワクチン接種を受けることができない学生もいることから、ワクチンは強制ではなく、本人の意思に基づき接種するものであるため、接種しない学生に対しての配慮は十分に行っていく必要がある。

松山看護学部は、現在も衛生委員会と学生委員会、教学委員会が連携して学生・教職員に向けて新型コロナウイルス感染症対策を実施している。今後も学生および教職員一人ひとりが、基本的な感染対策が実施できるように啓発し、学生へは校内・校外での日常生活の行動について、細かく情報提供をしていくことが重要である。その過程で教員は、感染対策を講じたうえでの授業を柔軟に遂行し、常に看護教育の質保証を確保した方策を講じることが重要となる。

なお、今後も国の施策に従い、学生・教職員に対しては継続したワクチン接種を計画していく。（表1）

【謝辞】

今回の新型コロナワクチン接種にあたり、ご尽力頂いた

南松山病院の職員の方々に感謝の意を表します。

文 献

首相官邸ホームページ (2021.10.18) 新型コロナワクチンについて. <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>.

文部科学省ホームページ (2021.5.14) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について. https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index_00012.html.

厚生労働省 (2021.7.13) ファイザー社の新型コロナウイルスについて. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_pfizer.html#001.

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (2021.5.21) 新型コロナワクチン接種後の職員を対象として健康観察 (速報). <https://www.ncgm.go.jp/news/2021/20210512.html>.

愛媛県 (2021.10.11) 県内のワクチン接種の進捗状況について. <https://www.pref.ehime.jp/h25500/kansen/covid19/vaccine.html#sintyoku>.

表1 新型コロナワクチン接種状況

学年	学生数	接種者				非接種者
		計	他所接種		南松山病院	
			病院	職域		
1年生	89名	77名	3名	2名	72名	12名
		86.5%	3.4%	2.2%	80.9%	13.5%
2年生	79名	69名	4名	2名	63名	10名
		87.3%	5.1%	2.5%	79.7%	12.7%
3年生	64名	59名	0名	4名	55名	5名
		92.2%		6.2%	86.0%	7.8%
4年生	60名	56名	0名	3名	53名	4名
		93.3%		5.0%	88.3%	6.7%
休学者	5名 3年生：3名 4年生：2名	4名	1名		3名	1名
		80%	20%		60%	20%
学生総数	297名	265	8名	11名	246名	32名
		89.2%	2.7%	3.7%	82.8%	10.8%